

## 農山漁村地域全体で低炭素社会の実現を目指す取組について

資料2

委員意見要旨	対応方針
<p>地球温暖化対策は、国民的課題なので、早めに浸透させるように、農協・農業者団体、エコファーマー等が推進していけるように、“運動”として出来ないか。</p>	<p>農林水産業関係者が積極的に地球温暖化対策事業に取り組めるような取組を検討します。 また、施策横断的な地域ぐるみの取組による長期的・継続的な温室効果ガスの排出削減する取組を検討します。</p>
<p>農山漁村地域における低炭素社会の実現に向けた取組について、「地域」という概念を取り入れていくことは重要。 トータルな視点が重要であり、個別の施策を複合させたときの排出削減量の評価をすることが必要。 バイオマスタウンの取組のような、トータルの取組を促すようなことを行ってほしい。</p>	
<p>資料中、「省CO2」、「温室効果ガス」等とさまざまな言葉が使われているが、対象は二酸化炭素だけでよいのか。農地土壌で排出されるメタン等も含まれるのではないか。</p>	<p>農業生産においては、メタン、一酸化二窒素の排出量が多く含まれることから、農山漁村地域全体で低炭素社会の実現を目指す取組においては、二酸化炭素のほか、メタン、一酸化二窒素を含むことを視野に置き、検討します。</p>
<p>政策手段の検討にあたり、農林水産省がコントロールできる政策に限るのか、他省庁との関係性をどこまで含めるのかを検討すべき。農山漁村地域と都市とのつながりとなると、東京都が進めようとしている排出権取引を例にとると、総務省、環境省、農林水産省がアイデアを出し合うことになる。</p>	<p>他省庁と連携した施策の推進も視野に置き、検討します。</p>
<p>山村は昔から疲弊している。地方分権化や市場化が進んで大丈夫なのか。まともな山はほとんど国有林。国策として山村に手を入れていくべき。</p>	<p>低炭素社会の実現に向けては、山村に賦存する資源・エネルギーの有効活用が重要であり、国民・企業等の幅広い参画を得る枠組みづくりを視野に置き、検討します。</p>
<p>昔は、農村地域の用水管理には労力をかけてきたが、近年は労力をポンプ等施設整備でカバーしてきた。施設管理のCO2排出についても評価が必要ではないか。なお、地下水の熱的利用についても着目すべきではないか。</p>	<p>基幹的用水施設の管理を含め、農業農村整備事業における施工、施設の供用・廃棄の各段階における温室効果ガスの排出量算定方法について、現在検討を行っているところです。</p>
<p>カーボンオフセットは賛否両論あるが、山村にお金をまわせる一手段である。</p>	<p>山村再生においてカーボンオフセットは重要な手法と認識しており、山村再生に係る施策の中で活用を検討します。</p>
<p>漁船も燃料で動いていて、その他にも水揚げの時でもCO2を出している。エンジンメーカー等省エネの研究を進め、電気推進も導入例がある。どのくらいの数字になるか分からないが、省エネ、CO2削減の対策を進めるため補助金や規制といった方法が考えられると思うが、国の施策が分かるような進め方に考えを巡らせた方がよい。</p>	<p>漁船漁業全体に対するそれぞれの省エネ技術の効果を明確化することを視野に置き、検討します。</p>

## 農林水産分野における省CO2効果の「見える化」に向けた取組

委員意見要旨	対応方針
<p>(表示イメージに30%以上の削減効果とあるが)鉛筆等をつくる際にCO2排出削減はいくらでもできるが、食料生産には、炭素排出するのが当然。“削減効果何%”と書いても工業製品にかなわない。そういった視点も考慮し、炭素排出量を表示した方がよいのではないか。ただ単純に何%というのは食品の場合には適当ではないのではないか。</p>	<p>農林水産業の振興及び省CO2型社会の構築といった観点から、農林水産物の特性を踏まえ、農林水産業関係者のCO2排出削減努力が消費者に理解いただける「見える化」の表示のあり方を検討します。</p> <p>さらに、消費者に分かりやすい表示のあり方や、消費者の選択行動を促進するための普及・啓発の取組を検討します。</p>
<p>消費者よりも、生産者、地域の方の削減努力のインセンティブになるような「見える化」の取組が必要。</p>	
<p>「見える化」を進めると、食品、流通業界に波紋を投げることになるだろう。日本では難しい。最終出口がラベルなのかどうかも含め議論をしていく必要がある。</p>	
<p>農林水産物は、消費行動が支えている。排出削減努力をしている生産物を買っていただけるような「見える化」の仕組みづくり必要。</p>	
<p>レジ袋問題が社会からの強い流れに押されて動いたように、「見える化」の取組を進めていく上で雰囲気づくりも大切。</p>	
<p>マークはすでに色々ありすぎて、迷ってしまう。分かりやすく、有効な省CO2効果の「見える化」を進めるべき。</p>	
<p>資料中、「省CO2」、「温室効果ガス」等いろいろな言葉が使われているが、対象は二酸化炭素だけでよいのか。農地土壌で排出されるメタン等も含まれるのではないか。</p>	<p>農業生産においては、メタン、一酸化二窒素の排出量が多く含まれることから、「見える化」に係る算定においては、二酸化炭素のほか、メタン、一酸化二窒素を含むことを視野に置き、検討します。</p>
<p>水産分野については、農業や森林・林業分野と異なり、まずは排出量の算出の方法論をきっちりやった上で対応をしっかりと図るべき。</p>	<p>水産物の特性を踏まえ、排出量の算出方法について関係者と連携し、検討します。</p>